

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	医療法人静風会 大垣病院		
事業所名	グループホームHIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1丁目178番地		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%27rue&ji_gvosyoCd=2172100881-00&PfCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人静風会大垣病院が母体であり、医療との連携、協力関係強い。特に平成25年より、大垣病院内に、岐阜県認知症疾患医療センターが設置され、認知症専門医をはじめ、専門スタッフよりの指導、協力体制も出来ている。利用者様、ご家族に安心していただいている。ちいきのなかにおいても、自治会、地域防災体を通じ、日頃から馴染みの関係ができています。非常時の際の連携も強い。加えて当施設は、以前より今日にいたるまで、身体拘束防止に向けてのケアを実行中であり、各室に鍵もなく、自由に見守りの中で行き来できている。

職員は、利用者がなじみの関係の中で安心してゆったりと暮らせる支援に取り組んでいる。その日の気分を大切に縫物・手芸・食事の準備や片づけ・習字・作品づくりなど利用者のやりたいことや持てる力を活かす支援をしている。また、散歩・買い物・ドライブなどの外出を日課として気分転換や地域の人と出会う機会をつつたり、近隣の店を利用したりして地域との付き合いを大切にしている。地域からも「非常時や緊急時には、気軽に声をかけてください、今後も何かと協力していきましょう」との心強い意見が出ている。急変時や重度化した場合の対応についても母体が医療法人であり認知症の専門医でもあることから利用者・家族・職員の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設より14年、当初より地域との繋がり多く馴染みの関係が管理者、職員共に出来ており理念を共有して実践できている	入り口や階段に理念を大きく掲示して、意識付けをしている。利用者が地域とのかかわりの中でゆったりと暮らしているか、日々のケアを確認しながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には毎回全ご利用者が参加、14年も続いている。地域行事、防災訓練連携等通じ地域の一員として交流している	日常的に散歩時に出かけ、挨拶や野菜の話などを行っている。また、地域とのつながりを大切に、クリーニング、衣服の直し、車椅子のパンク修理などに近隣の店を利用している。管理者は、自治会防災の理事として会議に出席し地域の一員としての役割を努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に地域の方から、認知症等についてのご相談を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では全員が生活発表やテーマに添っての意見交換等がされ、そこでの意見がサービス向上に活かされている。	会議では、事業所の取り組みや利用者の様子を報告して意見交換をしている。毎回、非常時の地域との連携も確認している。地域からは災害時の避難援助や緊急時に気軽に声をかけて下さいとの心強い意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	権利擁護、保佐人利用のご利用者が居られ、市や地域包括支援への情報交換、連携多くある。この度、身体拘束禁止の指針作成に関し市担当者との協力を得られた	市担当者に相談しやすく、身体拘束禁止の指針作成の指導を受け協力してもらった。介護認定の更新手続きに利用者と一緒に出かけるなど市と協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員は身体拘束の弊害をしっかりと学習しており理解できている。が当施設が2階にある為 申し訳ないが安全確保の為やむなく出入り口に施錠している。補うように毎日の様に散歩、ドライブ等を行っている	身体拘束や虐待をしないケアを研修で確認し実践している。事業所の構造上出入りが自由でない分毎日散歩・買物・ドライブに出かけ、雨の日は一階の託児所を訪問するなど拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が高齢者虐待防止関連法を学んでおり、見過ごされる事が無い様注意し、防止に努めている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されているご利用者が居られ、学び活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定時など、十分な説明にて理解、納得して頂ける様図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夜間のお茶会等寛げる時間を利用し 全ご利用者の意見などお聞き活かしている。ご家族面会時にはご意見など頂く様図っている。運営推進会議では多いにご意見を頂き運営に活かしている	毎晩開いている利用者とのお茶会で、思いや希望を聞いている。家族には、訪問時や電話、便りなどで日常生活を伝え要望を聞いている。歯磨き粉の要望や、体重測定の依頼があり応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎ等業務の中で意見交換し、必要時法人に申し入れ、反映させている	管理者は、申し送り時や日常の業務内で要望、意見を聞いている。職員各自に役割があり、それぞれのケアの提案や物品購入などの意見を取り入れている。必要に応じて法人へ要望や提案をする仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は向上心、やりがいを持って働けるよう職場環境、条件等の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員に法人、施設内研修の他、今後更に、外部研修を受ける事が出来るよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネには勉強、交流の場有り。職員同士は 関連他施設(特養)に移動した職員3名おり お互い行き来し交流、サービスの向上に繋がっている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に安心して頂ける様、アセスメントをしっかり取り傾聴し、他のご利用者とも仲良く共同生活が送れる様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心して頂ける様、お聞きしこちらからも丁寧に説明、信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを充分に取り、必要な支援を見極め他サービス利用も含めた対応に努めている、精神デイケアも有る		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の長年培ってきたものには、かなわない、職員のほうが教えて頂く事多い。共に共同生活を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、ご本人の様子、思い等報告、共に支えていく関係を築いている。ご家族の無い方には関係者と連携し代わって支援する事もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙は自由にやり取り出来るよう援助、他、同法人の中で行事等で再会される方も有り楽しみにされている。ドライブには地域を一巡する等努めている	居間に電話があり、自由に家族に電話が出来るよう支援している。信仰していた神社の参拝、行き付けの美容院に出かけるなど馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者全員がたまたま女性という事も有り、お互い支えあっている。出来る事、出来ない事が其々有るが補いあって自然に生活されている* *これはご利用者が立派		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気でやむなく退去される方がいても、同法人の医療関係等に入られる事多い、ご家族の要望により支援させて頂いている。他施設、病院への紹介もさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思い、生活習慣を把握、大切にケアに努めている。ご家族にヒントを得たり、表情、行動等からもヒントを得て支援している	夜のお茶会で思いを聞いたり、アセスメントや家族からの情報を知ること暮らし方の希望や意向の把握に努めている。気分が落ち着かない時はゆっくり傾聴し、利用者の思いが混乱しないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを充分に取り、環境、暮らし方等把握。これまでのサービス利用の経過等把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームのよさを活かし、現状を把握しゆったりと過ごせるよう個別支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを大切に、医師、Ns、Cw等も含めた関係者全員で話し合い其々の意見、アイデアを含め、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当職員が行うモニタリングと利用者・家族も参加する担当者会議での話し合いから介護計画を作成している。医師の意見も取り入れている。状態変化時に変更するなど現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行って見直ししている他新情報により早め 適時変更し見直し、実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の事情により、他科受診、市役所への届け等ご家族に代わりも随時おこなっている。喜ばれている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の連携もあり其々買い物、クリーニング、衣類直し等の関わりの中で生活で豊かな生活が出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、其々の主治医の下、健康管理(精神安定)が出来ている。急変時も即対応。安心した生活を送っている	全員が母体法人の協力医へ職員の同行で受診している。緊急時や歯科、皮膚科などの受診は家族の付き添いを基本としているが、職員が付き添うこともある。連絡を取り合っ情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回母体の大垣病院から訪問看護師が見えお互い情報交換し必要時、主治医にも報告、連携が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療法人であり、其々の主治医の下、健康管理(精神安定)が出来ている。急変時も即対応。安心した生活を送っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしないがその分医療との連携深い、ご本人、ご家族の要望により同法人内の病棟に入院される事多い。ご家族、地域の関係者からも信頼を寄せられている。奇跡的に再入居されたご利用者もみえる	入居時に、重度化や終末期は母体法人の医療機関への入院や施設等への入所の支援を説明して看取りをしない方針を伝えている。段階に応じて、本人・家族の思いを大切に医療と連携しながら取り組んでいる。職員は、急変時などの対応について勉強や訓練を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が介護職の経験が長く、落ち着いて急変時、事故発生時など対処できている。定期的な訓練も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎回運営推進会議にて災害時の連携について確認、他、管理者が自治会防災会議に出席、協力体制を築いている。全職員も避難できる方法等 訓練により身につけている	2階からの避難方法について日頃から話し合っている。はしご車で救助してもらう車椅子の利用者を窓から出られる部屋に移動する手順の訓練もしているが、夜間想定訓練が実施されていない。地域からは、「指定避難場所へ行く手伝いをします」との意見が出ている。	夜間想定訓練を必ず実施して欲しい。2階からの避難を考えると、近隣住民の方にも訓練に参加してもらって、更なる理解・協力を得られるよう期待したい。

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシー保護が出来ていると思う。研修等ある度、職員の接遇を振り返る機会を設けている、職員同士お互い、言葉かけや、対応に注意できる様図っている	利用者同士の口論に強い言葉でお互いを守る時もあるが、日常は尊重した声かけをしている。言葉や対応が良くない時は職員同士注意し合っている。排泄や入浴時は声をかけてからケアをするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎食のメニューはご利用者と相談して決めている、他意見、思いを伺いながら援助させて頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の様に散歩、買い物、ドライブ等があり、ご利用者の希望に添って支援している。拒否時はゆっくりして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者全員おしゃれであり、年齢を感じさせない程。美容院利用される方、服に興味のある方口紅をさすだけで満足される方等其々支援させて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理や好みの物をお聞きし、ご利用者、職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。其々の出来る事を見極め、楽しみながらして頂いている	冷蔵庫の材料から利用者と献立を決め一緒に準備している。利用者の出来る力を活かした包丁での皮むき、食器並べなど役割が有り食事作りを楽しんでいる。利用者と一緒に食事をし、誕生日や季節の献立など食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ダイエットに取り組まれるご利用者も居られるが栄養、水分が十分に確保出来る様図っている。定期的な血液検査では主治医より褒められている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きされる方、うがい薬使用される方、拒否される方等、其々支援出来ている		

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツはずしに力を入れている。現在夜間のみオムツ使用の方1名、他トイレでの排泄(昼夜共に)を実施している	入居時や退院後にオムツを使用している利用者には、トイレ誘導をしてオムツはずしに取り組み、布パンツに切り替えられるよう支援している。トイレでの座位が保持出来るように昼食前に下肢運動をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の食事(ヨーグルト、根菜類等)、飲食物の工夫の他、運動への働きかけ等個々に応じて取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、希望に応じ2回の方1名居られる午前中ゆったりと入浴され、夕方希望の方現在居られず、拒否続の方は日曜日にも実施する事有り	入浴を嫌がる時は、翌日入浴して保清を図っている。一日少人数の入浴で、歌を唄ったりしてゆったりと個々に合わせた支援をしている。ゆず・菖蒲湯など入れて季節感を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜のお茶会有り、ゆったり話を(回想等)した後、就寝、夕食後に休まれる方も一人見える。寝具等の清潔にも気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員、薬に対し理解しており、服薬支援が出来ている。症状変化の報告も出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技、趣味に応じ、裁縫、手芸、塗り絵、作品作り等の支援をしている、他散歩、ドライブ、階下の幼児とのふれあい等楽しみ方の支援をしている。又古いやわらかいタオルを集め、おしりふきを作り掃除などにも活用している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の様に散歩、買い物、ドライブ等があり、ご利用者の希望に添って支援している。地域や法人のふれあい祭り、認知症喫茶、スシローへの外食等外出も多い	利用者の希望にそって、散歩・買物・ドライブはほぼ日課としている。市主催の喫茶店や回転ずしに毎月出かけ外食を楽しんでいる。車椅子の利用者も一緒に初詣、ふじの花の見学、桜見物などへ外出して四季を楽しめるよう支援している。	

グループホームHIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望、力に応じ、お金所持や、使う事への支援できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来る様、居間に置いている散歩しながら手紙を出しに良く事も有る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう作品を展示したり 居心地良く過ごせるよう工夫している。食事時等、全室窓開放し感染防止の事も有るが、悪臭も無い。全室空調設備完備されているが、室内の温度を測り、ご本人の様子、希望により調節している	玄関や廊下には手づくり作品・外出時の写真を飾り、季節感や思い出が途切れないようにしている。食堂の椅子には個々に合った座布団・クッションを背にあてるなど工夫している。窓を開けて空気を入れ替え、温度調節を細やかに行き快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内のソファにて 音楽を聴いたり、居眠りしたり気の合った方同士話したりと有効に利用されている。何時でもお茶の用意が出来ており、勧めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人と相談し、好みの写真、家族写真、ご自分の作品等を置いている。さっぱりとしたお部屋ご希望の方には希望通りとなっている	一人ひとりの好みや思いに合わせた居室作りをしている。机・化粧道具・孫の写真・作品や花など使い慣れた物や好きな物を置いている。掃除は利用者も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター無く、廊下の手すり無いが、その分職員が一人ひとりの力を見極めており手引き介助等適時行っている。この度要介護度が下がりご家族が喜ばれた例がある。転倒事故等無いよう支援している		